



## コロナパンデミック拡大 新種も猛威の危険?

### 政府の無為無策に 医療関係者危機感



日本医師会、看護協会、歯科医師会、薬剤師会、病院会などが「現状のままだと医療崩壊が起こり、通常の医療も行えなくなる」としてそれを防ぐため

の医療支援や国民に徹底した予防対策を呼びかけるなどの適切な施策を訴える「緊急事態宣言」を出しました。

「Go Toキャンペーンは止めてくれと言ってきたのに、なぜ放置したのか。このままでは日本の医療制度が崩壊してしまうよ」という危機感です。日医の中川会長は「日本が誇る医療制度が風前のともし火になっている」と表現していました。

「近いうちにワクチンも開発されるだろうから……」というものではありません。ヨーロッパの多くの国の首脳が相次いで罹患しています。しかもコロナウィルスが変異してさらに感染力を増しているとの報道もあります。

コロナウィルスはDNA（二重螺旋の遺伝子）ではないため、遺伝子のコピーミスが起こりやすく、変異しやすいとのこと。イギリスやオーストラリアなどに新しいコロナウィルスが広がりつつあり、制御不能との報道も伝えられ、新型が多発しているイギリスはいま周辺



のEU各国から交流を遮断され、孤立状態を深めています。開発中の薬品やワクチンの有効性も不確実です。日本政府が医療現場の人たちの命と暮らし、そして国民の命を守るため

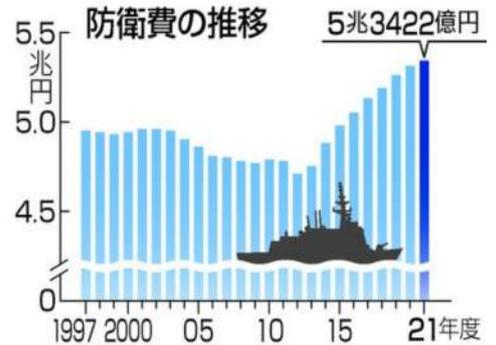
に本気で取り組むことが求められています。

## 菅内閣2021予算案 一層の危険な軍拡

菅内閣は2021年度予算案を決めました。106兆円の大型予算。新規の国債の発行額は、43兆6000億円程度で、ますます国家財政の赤字は膨大になります。それでも軍事費は約5兆3400

億円と9年連続の増額です。

このコロナ禍の下、医療現場は疲弊しきっているのに全く配慮されず、軍事費だけは伸び続けています。



◆「敵基地攻撃能力」のためF15戦闘機に搭載する長距離巡航ミサイルの開発・取得へ。

◆「いずも」型護衛艦の空母化をすすめ、「海外で武力行使する国」への道をつき進もうとしている。

◆陸上の「イージス・アショア」配備に失敗し、海上に移して、新型イージス艦2隻を導入しようと、調査費17億円を盛り込む。アメリカに購入を約束したため、むりやり海上への配備に切り替えたもの。

◆ミサイルを改良し、長射程化して陸海空どこからも発射できるようにする。予定の10倍以上の335億円。

◆北朝鮮から打ち上げられたミサイルを確実にとらえて撃ち落とすことは極めて困難（多くの専門家は不可能という）。これを補完するため、26年度に人工衛星でミサイル監視する自衛隊と米軍の宇宙状況監視（SSA）システムを連結させる。そのため26年度にも打ち上げる予定の監視衛星「SSA衛星」の設計費など宇宙関連経費におよそ659億円。

■一方、コロナ禍で浮き彫りとなった日本社会の脆弱性、医師・看護師の不足が明らかになっている。看護師の退職が2割以上の病院で起こっているというのに、これに対して構造的な問題を解決しようとする方針はない。逆に公立・公的病院統廃合を推進しようとしている。保健所も、東京などでは各地の所長が「絶望的」と悲鳴を上げているが、自民党政治が半減させた保健所数を元に戻す方向性は全くない。保健師増員は保健所職員の3%というわずかなもの。コロナ禍で大きな打撃を受けた非正規雇用の労働者の正規化のための施策もない。

## 安倍内閣 利権疑惑などで辞任大臣こんなに！

### 吉川元農水相が議員辞職

吉川元農水相が大手鶏卵業者との癒着の疑惑で議員辞職した。いまに始まったことではないが、あまりにお粗末な大臣が多すぎる。これで安倍政権下での農水相だけでも不祥事5人！農民はたまったものではない。調べてみると辞職大臣こんなにあった。

(○は第一次安倍内閣 ●は第二次以降)

- 2006年12月佐田玄一郎行革相政治資金問題で辞任
- 2007年5月松岡利勝農水相自殺(談合や政治資金など疑惑だらけと言われたが、原因不明)
- 2007年7月久間章生防衛相「原爆投下しようがない」発言で辞任
- 2007年8月赤城徳彦農水相事務所費問題で辞任
- 2007年9月遠藤武彦農水相補助金不正受給問題で辞任
- 2012年12月26日 第二次安倍政権発足
- 2014年10月小淵優子経産相が違法献金で辞職
- 2014年10月松島みどり法務相が「うちわ」問題で辞職
- 2015年2月西川公也農水相補助金受給団体から不正献金で辞任
- 2016年1月甘利明経済再生相が「口利き」疑惑で辞職
- 2017年4月今村雅弘復興担当相が失言で辞職  
大震災を「これはまだ東北だったからよかった。」
- 2017年7月南スーダンPKO日報隠蔽問題 稲田朋美防衛相が辞職する形で幕引きとされた。
- ▲江崎鉄磨沖縄・北方担当相(2018年2月病气辞任)
- 2019年4月桜田義孝五輪担当相「復興以上に大事なのが高橋議員だ」と述べ、責任をとる形で辞職。
- 2019年菅原一秀経産相、通夜に香典やメロンで辞任
- 2019年河井克行法相妻の選挙で選挙違反の疑い。辞任
- 2020年6月18日 河井克行・案里夫妻公選法違反で逮捕
- 2020年12月吉川貴盛元農水相鶏卵疑惑の中、議員辞職
- 2020年12月上記の件にからみ接待も受けていた西川公也元農水相が内閣官房参与を辞任(2015年辞職に追い込まれ、選挙に出て落選したが安倍内閣で特別に任命)

## 検察は公正な捜査を、国会は証人喚問を！

12月25日、検察は安倍前総理を呼んで事情聴取。検察に呼んだのは、「桜を見る会の費用を補てんしたのは知らなかったのなら不起訴にしますがいいですね」と談合したのではないかと多くの人が疑っている。案の定秘書を罰金刑にただけ。国会招致はしたが相変わらず「私は知らなかった」と言い張るだけ。118回もウソをつかれた国会議員は与野党ともに怒るべき。幕引き許すな。参考人でなく、ウソが言えない証人喚問を実現しよう。

## 大阪地裁判決大飯原発訴訟勝！ 「設置変更許可」取り消し

関西電力大飯原発3、4号機(福井県・点検中)を原子力規制委員会は2017年に「設置変更許可」をしたが、住民約130人が、取り消しを求めて訴訟。12月4日、大阪地裁森鍵裁判長は「許可は違法」と取り消しを言い渡した。

2011年の東電福島第一原発の事故で新たな規制基準ができて以降、設置許可を取り消す司法判断は初めて。

関電は耐震性設計のもととなる基準地震動を過去の平均で計算しているが、地震の「ばらつき」を考慮しておらず「看過しがたい過誤、欠落がある」と厳しく批判した判決。

原子力規制委員会の田中俊一元委員長は再稼働にGOサインの際に「世界一厳しい基準をクリアしたということです。しかし絶対安全と言っているわけではありません」と言って与えたお墨付きがここで挫折。

## 「ステーキ会食」はマズかった

多くの国民が仕事を失い。住むところや食べ物さえも困窮しているさなかに、国民には行動自粛、集会や外食も控えよと説教しながら、自らはお仲間と8人でステーキ会食。というニュースに海外からも驚きの声。

高齢者は重症化しやすい、医療崩壊を招くので控えてほしいと政府や専門家は言っていたはずだが、全員70歳以上でマスクもせずに、3密に加えて、親密に秘密の会談をしていた。

しかも発覚すると「国民の誤解を招く」という意味においては、真摯に反省している」と述べた菅首相。誰も誤解などしていない、正しく理解している。彼の反省は正しく表現すれば「批判を招いた」ことで、「知られてしまったのはまずかった」と言っているに過ぎない。

## 新成人への訴え

2021年1月10日(日) 午前9:00~10:00  
午前11:00~12:00

場所：キッコーマンアリーナ駐車場

成人式出席の新成人にアピールします。

式は密を避けて二度に分けて行われるため、それぞれの受付開始の30分前集合としました。ご参加下さい。

感染拡大はさらに勢いを増していると伝えられており、若者たちも当日参加するのか、ネットで見ただけなのかは不明ですが、会の宣伝は行うことにしました。

このため例月の9日のおおたかの森駅での宣伝は中止いたします。

~~~~~

カンパはこちらの郵便振替口座へ  
00130-5-464735 口座名 九条の会・流山